

# カルテの余白

五省会のドクターを紹介します

## わが家の末っ子



西能病院 整形外科医長

あおき まさと

青木 雅人 (41歳)

得意分野 脊椎脊髄病外科

趣味 スポーツ観賞

スポーツ テニス

好物 ビール

昨年春、家族が増えた。名前はマロン。薄茶色、縞模様のスコティッシュフォールドで、名前のごとく、垂れた耳がとても愛らしい猫である。子どもが生まれたときのように、妻といろいろな名前を出し合うがどれもピンとこない。そのとき末娘が「マロンがいいんじゃない」と。うまい！ こうして娘？が一人加わった。

最近膝がさびしいと思ったら、中高学年となった息子たちがリビングを離れ、自室で過ごすことが多くなっていった。また、思えば自分の子どもころ、家には犬、猫があり、受験勉強の時にいつも膝の上にはシャム猫のミィで、とても気持ちが悪された。そんなわけで猫を飼うこととした。狙いは的中した。リビングに活気が戻り、というか、マロンがいるところに子どもたちが集まるようになり、我こそはと撫で、抱っこし、可愛がり、家がにぎやかとなった。いまではマロンはコタツや自分のハウスの中など、特に名付け親である末娘の目を避けるようにして、静かなところで寝る始末である。しかしときには、息子たちが机でノートを広げていると、その上に寝そべり、撫でてとばかりに喉を鳴らして甘える。自然と子どもたちの表情も和んでいる。何ともよくできた猫である。

手術で遅くなった日には、帰るとマロンが迎えに来てくれるということも少なくない。今話題のメタボの徴候が見えてきたこともあり、晩酌（大好きなビール）を止めた私にとっても、帰宅後膝に入ってくるマロンは、疲れを癒してくれる大切な存在となっている。

